

プレスリリース

2014年10月1日

報道関係者各位

LOD チャレンジ実行委員会

### Linked Open Data チャレンジ Japan 2014 作品募集開始のお知らせ

LOD チャレンジ実行委員会(所在:慶應義塾大学環境情報学部萩野研究室、実行委員長:慶應義塾大学環境情報学部教授 萩野 達也)は、本日、2014年10月1日、Linked Open Data チャレンジ Japan 2014 (以下、LOD チャレンジ 2014)の開催を宣言し、作品募集を開始いたします。

募集は2015年1月18日まで継続し、その後、厳正な審査を経て、3月12日に授賞式を開催し結果を発表いたします。

LOD チャレンジは、さまざまな分野で Linked Open Data (LOD) のデータづくりや活用にチャレンジされている方々による活動の発表の場を提供します。新たなデータづくり、データ公開、データ共有の仕掛けやオープンデータ活用のアイデア、アプリケーションなどを「作品」として募集します。オープンデータのコミュニティを醸成し、応募作品をコンテスト形式で評価し合いながら、オープンデータ活用のベストプラクティスを探ることで、日本の新しい未来を創造することを目的とします。

3ヶ月以上にわたる作品募集期間に、LOD チャレンジデーと称する講演会、勉強会、アイデアソン、ハッカソンの開催を予定しております。

LOD チャレンジは、さまざまな企業・団体からの支援をいただいております。データ提供パートナー、基盤提供パートナーから作品の製作に利用可能なリソースが提供され、応募された優秀な作品、可能性が感じられる作品に対してスポンサーからの支援に基づき、総額150万円以上(予定)の賞金が授与され、その後の活動が支援されます。また、メディアパートナー、サポーター(後援団体)との連携も重視し、コンテストを通して生じた参加者や関係者の活動を広く社会に伝達・浸透させ、社会との相互作用を活性化させる活動や、イベントの共催などを進めます。

## \* 公式サイト・SNS

公式サイト: <http://lod.sfc.keio.ac.jp/challenge2014/>

Facebook: <http://www.facebook.com/LOD.challenge.Japan>

Google+: <https://plus.google.com/108435917546080277840>

Twitter: @LodJapan

ハッシュタグ: #lod2014

## \* LOD チャレンジ 2014 実施概要

Linked Open Data に興味があるどなたでも作品応募可能です。

### 募集作品

前回からさらに部門を増設し、データセット部門、アイデア部門、アプリケーション部門、ビジュアライゼーション部門、基盤技術部門(LOD チャレンジ 2013 で新設)の5部門において作品を募集します。本チャレンジでは、公開された応募作品どうしがつながり新しい価値を創造すること、つまり以下のような応募された作品の再利用を推奨しています。

- データセット部門へ応募されたデータを利用するアイデアをアイデア部門へ応募する。
- アイデア部門へ応募されたアイデアを実現するアプリケーションを開発しアプリケーション部門に応募する。
- アプリケーション部門で応募された作品をより魅力的にするためのアイデアやデータセットを応募する。
- データ、アイデア、アプリケーション作品の魅力や価値を引き出す可視化作品をビジュアライゼーション部門に応募する。
- 基盤技術部門に応募された作品を活用した作品をアプリケーション部門へ応募する。

### 作品募集期間

2014年10月1日～2015年1月18日

### 応募方法

公式サイトにある各部門の応募フォームに必要事項を記入の上、ご応募ください。

## 審査結果発表と表彰

2015年3月12日（慶応三田キャンパス南校舎ホールにて授賞式）

賞金総額 150 万円以上（予定）

## 審査方法

LOD チャレンジ実行委員会で厳選な審査を行い、授賞作品を決定します。

### \* 関連イベント

作品募集と連動して、LOD チャレンジデーと称する講演会、勉強会、アイデアソン、ハッカソンなどのイベントを開催します。また協力関係にある団体との共催イベントなどを多数計画中です。開催予定は以下の URL をご覧ください。

<http://lod.sfc.keio.ac.jp/challenge2014/event.html>

※各イベントにつきましては、今後企画するものも含めて、順次公式サイト・SNS で開催案内をいたします。なお、9月27日は応募開始に向けたキックオフイベントとして、慶應義塾大学三田キャンパスにおいて、オープンデータ・サミット ～つないで広げるオープンデータ（LOD チャレンジ 2014 キックオフ）～ を開催しております。

**\* 主催：** LOD チャレンジ実行委員会

### \* Platinum スポンサー(五十音順)

- 朝日新聞社
- 日本マイクロソフト株式会社
- 富士通株式会社
- 一般社団法人リンクデータ

### \* Gold スポンサー(五十音順)

- インディゴ株式会社
- インフォコム株式会社
- 株式会社 ATR Creative
- ESRI ジャパン株式会社
- 九州 IT&ITS 利活用推進協議会(QPITS)
- g コンテンツ流通推進協議会
- ヤフー株式会社

#### **\* データ提供パートナー(五十音順)**

- (独)宇宙航空研究開発機構
- オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン
- 国立国会図書館
- 国立情報学研究所
- 一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会
- 総務省統計局、独立行政法人統計センター
- 公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団
- LODAC: Linked Open Data for Academia

#### **\* 基盤提供パートナー(五十音順)**

- 株式会社デジタルキューブ
- 日本マイクロソフト株式会社
- 一般社団法人リンクデータ

※ 提供データ/提供基盤の利用方法などの詳細は、公式サイトに順次掲載予定です。

#### **\* メディアパートナー(五十音順)**

- @IT (アットマーク・アイティ)

#### **\* サポーター(後援団体)(五十音順)**

- オープンデータ流通推進コンソーシアム
- 一般社団法人オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン
- 経済産業省
- 一般社団法人 情報処理学会
- 独立行政法人 情報処理推進機構
- 一般社団法人 人工知能学会
- 一般社団法人 人工知能学会 セマンティックウェブとオントロジー研究会
- 総務省
- ビッグデータ・オープンデータ活用推進協議会
- 特定非営利活動法人 リンクト・オープン・データ・イニシアティブ

※スポンサー、パートナー、サポーターについて、現在就任を検討いただいている団体については、正式なお申し

込みがあり次第、公式サイトに順次掲載予定です。

**\* LOD チャレンジに期待すること**

※LOD チャレンジに期待することについては、任意でご寄稿いただいた団体のコメントを掲載しております。今後いただいたコメントは順次以下に掲載予定です。

<http://lod.sfc.keio.ac.jp/challenge2014/recommendation.html>

<p>朝日新聞社</p>	<p>朝日新聞社は、日々進化するテクノロジーを受け入れて変わりつづけるための取り組みを「未来メディアプロジェクト」と位置付け、さまざまな挑戦をしています。</p> <p>2014年3月には国内の新聞社として初めて、社会課題を見える化する「データジャーナリズム・ハッカソン」を開催し、社外のエンジニアやデザイナーの方々と記者と一緒に新しい報道に挑みました。</p> <p>今年度のチャレンジ参加者の皆さんから、データを活用して社会課題をより分かりやすく伝えたり、解決策を共有するような新しい報道・メディアの可能性を示す作品が生まれることを期待しています。</p>
<p>日本マイクロソフト株式会社</p>	<p>オープンデータに対する国・自治体の関心の高まりや取り組みの加速は、昨年の LOD チャレンジの際と比較しても目覚ましいものがあります。マイクロソフトとしても様々なオープンデータの取り組みを国内外を問わず支援していますが、その中で LOD の存在感も一層高まってきています。過去の LOD チャレンジでは、クラウド環境「Microsoft Azure」の技術支援を通じて「次世代統計利用システム・イエローページ <a href="http://nexstat.azurewebsites.net/">http://nexstat.azurewebsites.net/</a>」のような素晴らしい作品のお手伝いをしてまいりました。今回の LOD チャレンジでも、より多くのオープンデータやサービスが生まれ出され、弊社としてもオープン・イノベーションに寄与できることを期待しております。</p>
<p>富士通株式会社</p>	<p>人々が ICT の力を活用して、ビジネス・社会にイノベーションを起こし、豊かな社会を築いていく—富士通では、こうした新たな社会を「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」と呼んでいます。近年、世界中に拡大するオープンデータ活動は、まさにヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティを実現する有力なアプローチであるといえます。この LOD チャレンジの</p>

	<p>先進的な取り組みが、世界のオープンデータ活動を牽引し、豊かな社会の実現につながることを期待しています。</p>
<p>一般社団法人リンクデータ</p>	<p>LOD チャレンジをはじめコンテストに作品を応募される皆様の中には、コンテストで受賞することだけではなく、その先のさらなる展開を目指している方も多いのではないのでしょうか。</p> <p>LinkData.org では、LOD チャレンジへの作品応募やイベント参加をきっかけに、「一緒に活動する仲間を集めたい」「地域の課題を解決したい」「新しいビジネスを起こしたい」といった夢を持つ皆様に応援し、皆様が創り出す素晴らしい作品がさらに大きな成果へとつながるように、様々な面からサポートするための基盤を提供してまいります。</p>
<p>インディゴ株式会社</p>	<p>Linked Open Data の "Linked" に「こだわった作品」に出会えること、期待しております。</p>
<p>インフォコム株式会社</p>	<p>皆様の柔軟な発想により、新しい、魅力的なサービスが創造されること、また、この取組みによって、より多くの人に Linked Open Data に興味を持っていただけることを期待しております。</p>
<p>株式会社 ATR Creative</p>	<p>オープンデータが有効に活用される社会の実現のためには、政策面と技術面が両輪となってオープン定義の意義を市民社会全体に伝えていく必要があると思われまます。技術面においては、ウェブのアーキテクチャーと思想に基づいて、オープンデータを互いにリンクし、ネットワーク外部性により価値を指数関数的に拡張していこうという Linked Open Data (LOD) が、オープンデータの意義と価値を高める真に重要な基盤技術のひとつであると考えています。</p> <p>これまでの LOD チャレンジの活動により、LOD の活用に関する技術的な深まりとともに、LOD に関心を持つコミュニティの広がりもたらされたと感じています。LOD チャレンジ 2014 によりさらなる継続的な発展がなされることを期待しています。</p>
<p>ESRI ジャパン株式会社</p>	<p>GIS (地理情報システム) の世界でもオープンデータのニーズが高まっています。ESRI ジャパンでは、データカタログを簡単に構築できる「ArcGIS Open Data」をはじめ、地理空間情報を含むデータ流通サイクル全体において、オープンデータの推進活動に積極的に取り組んでいます。</p> <p><a href="http://beta.ejopendataportal.opendata.arcgis.com/">http://beta.ejopendataportal.opendata.arcgis.com/</a></p> <p>LOD チャレンジでの皆様の作品を通して、地理空間情報を用いて社会に新たな価値が創出されることを期待しています。</p>
<p>九州 IT&amp;ITS 利活用推進協議会</p>	<p>オープンデータは次のステージに進んだと感じています。オープン</p>

(QPITS)	<p>データという言葉も認知され、実際にオープンデータ化される動きも増えてきました。アイディアソンやハッカソンなどのイベントも各地で行われるようになりました。次は“オープンデータが社会にどのような価値を生み出すことが出来るか”、“実際に提供している価値は何か”、が問われるフェーズです。LOD チャレンジとともに、私たち九州 IT&amp;ITS 利活用推進協議会も、オープンデータを活用した社会価値創造に、九州の地から世界に向けてチャレンジして参ります。</p> <p>九州 IT&amp;ITS 利活用推進協議会事務局長 / LOD チャレンジ実行委員会 九州支部長 渋谷 健</p>
g コンテンツ流通推進協議会	<p>g コンテンツ流通推進協議会では、位置情報に関係したコンテンツの流通環境の整備及び新たなビジネス領域と市場の拡大を目指し、活動をしています。近年はオープンデータに関する意見交換や提言の取り纏め、普及啓発活動を実施しています。新たな価値やサービスが、LOD チャレンジを通じて創出されることを期待しています。</p>
ヤフー株式会社	<p>LOD やセマンティック・ウェブ技術は今後人々の暮らしのより多くの局面で課題解決し利便性を高める可能性を持っていると考えます。LOD チャレンジが盛り上がることで本技術が継続して発展し、より多くの人々の幸せにつながることを期待します。</p>
(独)宇宙航空研究開発機構	<p>JAXA では、宇宙からのデータと地上のデータのリンクによる新たな価値の創造を目指しています。LOD チャレンジにて、JAXA が提供する「地球観測データ」×「？」で、新たな付加価値データやサービスが創出されることを期待しています。</p>
株式会社デジタルキューブ	<p>LOD チャレンジ 2014 の御開催おめでとうございます。株式会社デジタルキューブはLOD 活用に最適なクラウドホスティングのベンダーとして、この急速に拡大するソリューションのインフラとサービスを御提供することで、支援をして参りたいと考えております。</p> <p>株式会社デジタルキューブ 代表取締役 小賀浩通</p>

\* 本件連絡先

LOD チャレンジ実行委員会 事務局

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

慶應義塾大学環境情報学部 萩野研究室内

[lod-challenge@sfc.keio.ac.jp](mailto:lod-challenge@sfc.keio.ac.jp)

## 【参考】

### \* **Linked Open Data (LOD)**とは

Linked Open Data (LOD)は、Web の技術を利用して、計算機が処理しやすい形式で情報を共有する、新しい仕組みです。インターネット上のオープンな場へ LOD の形式で発信することで、情報を多くの人々へ広くかつ迅速に伝えることが可能となります。また、発信された情報を、Web 上で共有したり相互につなげる(Link する)ことによって、Web 上に巨大な知識データベースが形成されています。こうした知識を利用することで、価値ある新しいサービスが立ち上がり始めています。

これまでの Web は、HTML で書かれた文書どうしがハイパーリンクで結ばれた、「文書の Web」でした。人間は、ハイパーリンクをたどって文書を閲覧したり、検索エンジンサービスに対してキーワード検索することにより、情報へアクセスしていました。例えば、ある書籍についての情報を、出版社、書店、図書館、クチコミなどの各 Web サイトが持っていたとしましょう。それらが同じ書籍についての情報であることは、人間が読むと理解できますが、計算機に判定させるためには、書籍のタイトルや著者などの名称を抽出したり、同一の名称かどうかを調べたりするなど、ひと手間かける必要があります。

LOD は、計算機が処理しやすいように、書籍のタイトルや著者といった最小単位のデータを扱い、それらのデータどうしをリンクで結ぶことによって、情報を表現できるようにしたものです。これらの情報をインターネット上のオープンな場へ発信し共有することによって、他の計算機が参照したり、新しいデータをリンクとともに付加したりすること



が可能となります。Linking Open Data 運動を通して、LOD 形式のデータの公開とリンクが広まってきており、インターネット上に「データの Web」と呼ばれる巨大なデータベースが形成されています。

**\* “オープン”はデータや人をつなげます**

社会や産業の基盤となりうるデータを共有化し、つなぎあわせることが、データの価値を高め、社会や経済に寄与するとの考え方が世界中のあらゆる分野で広がっています。2011年3月に東北地方を襲った大震災直後の混乱の中では、Web が社会的なインフラとして大きな力を発揮しました。ネット上で多くの人々が情報を出し合い、つなぎ合わせることで、価値あるサービスが即座に立ち上がるとともに、そこからネットを介した支援活動の輪が広がりました。このように、多くの人々がオープンにしたデータ(Open Data)を、皆でつなげて(Linkして)大きな価値を生み出していく運動は「Linking Open Data」と呼ばれ、世界中のあらゆる分野で急速に広がっています。この活動を通して、私たちの創造力と、つながろうとする力が様々なサービスを生みだし、私たちのライフスタイルを大きく進化させることでしょう。

**\* LOD チャレンジは4年目に突入、大きく成長を続けています。**

2011年度のLODチャレンジ2011は、初めての試みにも関わらず、84の個人、団体、グループから計73作品ものご応募と、スポンサー8社、パートナー/サポーター8団体の支援をいただきました。3年目の2013年度は5部門321作品の応募がありました。公共のオープンデータを利用した作品の増加に加えて、工業・スポーツ・メディアなどの新しい分野の作品が登場してきており、オープンデータの可能性の広がりを感じています。

本年度も皆さまからのご参加、ご支援をよろしくお願いいたします。

LOD チャレンジ 2013 活動報告

<http://lod.sfc.keio.ac.jp/blog/?p=2109>

Linked Open Data チャレンジ Japan 2013 受賞作品発表のお知らせ

**\* LOD チャレンジ実行委員会メンバー**

**実行委員長**

萩野達也 (慶應義塾大学)

**副委員長**

豊田哲郎(独立行政法人理化学研究所)

高梨益樹(富士通株式会社)

**事務局長**

乙守信行 (株式会社 MetaMoJi)

**幹事**

鈴木孝幸 (神奈川工科大学)

**LOD チャレンジ北海道支部 支部長**

山口琢(はこだて未来大学)

**LOD チャレンジ関西支部 支部長**

古崎晃司(大阪大学)

**LOD チャレンジ東海支部 支部長**

年岡晃一(中部大学)

**LOD チャレンジ九州支部 支部長**

渋谷健(九州 IT&ITS 利活用推進協議会 事務局次長)

**実行委員(五十音順)**

浅野優(株式会社日立製作所)

生島高裕(株式会社数理先端技術研究所)  
石村彰大(株式会社富士通総研)  
上田洋(株式会社 ATR Creative)  
大友翔一(慶應義塾大学研究員)  
加藤文彦(大学共同利用機関法人情報・システム研究機構)  
込山悠介(東京大学)  
加茂春菜(株式会社アイ・エム・ジェイ)  
糸照宣(株式会社富士通研究所)  
小林巖生(有限会社スコレックス)  
小林茂  
崎川真澄(朝日新聞社)  
佐藤宏之(NTT レゾナント株式会社)  
下山紗代子(独立行政法人理化学研究所)  
白松俊(名古屋工業大学)  
高橋陽一(インディゴ株式会社)  
中辻真(NTT サービスエボリューション研究所)  
中野圭(武蔵野美術大学)  
長野伸一(株式会社東芝)  
西村一彦(株式会社ボイスリサーチ)  
羽鳥健太郎(独立行政法人情報処理推進機構)  
細見 格(日本電気株式会社)  
松村冬子(青山学院大学)  
山崎耕平(ソフトバンクテレコム株式会社)  
山本泰智(ライフサイエンス統合データベースセンター)  
和田康宏